



上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子



大船山

第 11 号

令和5年9月29日

ホームページ <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>



11月1日、本校を会場にした研究発表会への思い

校長 細江 幸次

9月16日(土)は残暑厳しい中、小中合同運動会を終えることができました。各ご家庭、地域から多数の皆様にご参観いただき、ありがとうございました。途中、熱中症を心配して予定外の休憩・給水タイムを設けたため、終了時刻がずれ込んだにもかかわらず、後片付けではたくさんの方々にご協力いただき、心より感謝申し上げます。小中の上矢作っ子たちも総練習までの反省を大いに活かし、種目・演技の練習の成果を発揮し、4年生以上の係の仕事にも精一杯取り組むことができました。種目においては例年以上に接戦が多かったのも、そういった上矢作っ子の気持ちが形となって表れたのではないかと感じています。

11月1日(水)は本校を会場にして、岐阜県小学校理科研究大会が終日にわたって開催されます。県内の主に小学校理科教員100名余が参加予定の大きな研究大会となります。当日の午前は本校全学年が授業を公開(1, 2年生は特別活動(プログラミング)、3~6年は理科)します。

近年は新型コロナの影響もあってか、学校外の方に授業を参観していただいて授業研究会を行うことが少なくなってきましたが、日頃の学びの成果を十分発揮して上矢作っ子の自信づくりの場になることを願っています。

本校は令和3年度より科学的なものの見方・考え方を育む理科の授業づくりの研究を開始し、ICTを有効に活用しながら情報の収集、整理、選択・判断、事実や自己の考えの表現、情報発信の力を理科という教科を学ぶことを通して培ってきました。スクールGIGA構想が進展する中、やはり授業を参観する目は情報機器の活用の仕方に集まりそうです。しかし、どれだけ高性能な情報機器を揃えたところで、使う側の子どもたちに力が付いていなければ意味がないという強い思いを抱いて本校の研究を進めてきました。動と静のメリハリを子どもたち自身が意識的できるようにする「静けさづくり」もその一環であり、グループでの観察、実験や小集団・学級全体での追究がより豊かなものになっていくために道徳や学級活動も重要視してきました。見た目は「ありふれたスタンダードな授業でありながら、いざ同じようなことをやろうとしてもなかなかできない授業=日頃の鍛えがモノをいう授業づくり」、つまり、ここでも「日常」と「行事」を両輪とした取組が重要であると考えています。

当日に見ていただく子どもたちの姿はプログラミング教育、理科の授業の一コマなのかもしれませんが、その中には日頃の先生と子どもたちで作りあげてきた営み(日々の様々な教科における鍛え、学級づくり・仲間づくり・授業づくりの足跡)が感じられる授業になることを願っています。



日頃の練習の成果が本番にも表れていました



4~6年 よっちょれ